

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	総合発達支援デイサービス きぼう印西		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 12日		～ 2026年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 12月 12日		～ 2026年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童のことを十分に理解し、特性に応じた専門性のある支援を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の特性や性格や児童間の相性を考慮し、ミーティングで支援内容を日々、アップデートしています。また、特性を本質的に理解するために感覚統合理論やソーシャルスキルトレーニングを社内研修、その他の内容を外部研修にて習得しています。 臨床美術クラスを設置し、言葉のみでなく、作品を通じた表現の機会を設けています。また、作品展示を2度実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修への参加を増やし、より専門性があり、児童にとって自分らしく表現できる場所であり続けられるように努力します。 臨床美術クラスの拡大および展示機会の増加を考えています。
2	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」で示す項目を適切に設定した児童発達支援計画(個別支援計画)の作成とそれに基づいた支援内容ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」に加え、身辺自立動作の習得やケースにより発達検査内容を記載。保護者様とスタッフ間で共有し、個別支援計画内容に基づいた支援を行っています。また、個別支援計画を関係機関、併用利用の保育園、幼稚園とも共有しています。 	担当者会議の開催や関係機関との協力体制を強化し、より現実的かつ理想的な支援計画を目指します。また、地域連携を意識し、自事業所のみでなく、地域で協力し、児童を支えられることを目標に運営します。
3	共感的な支援および家族支援を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童に対しては、怒ることはしない方針であることをスタッフ間で共有し、「どうしたいのか」を常に児童に確認しながら支援を行っています。保護者様に対しては、送迎の際に様子を伝えることに加え、個人面談で生活環境等の変化を共有、LINEで日々の変化や支援内容の説明、ご家庭での関わり方のアドバイスをしています。要望により、服薬についてや特性理解に関する研修も実施しています。 保護者様、兄弟様が参加するイベントを2回実施しました。 スタッフがペアレントトレーニングに関する資格を取得しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 参観、保護者参加型研修の回数増加を考えています。 ペアレントトレーニングの機会を模索します。まずは、ニーズの確認を行うことから始めたいと考えます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう更なる改善が必要と感じます。	日々の活動では、粗大運動や臨床美術、工作、レクリエーション、外出を組み合わせて固定化はされておりませんが、通う曜日や悪天候時や気温の高い日が続いた際には、やや固定化されているように感じる可能性があります。	今年度は固定化されないよう意識し、例年と比べ、活動の幅が広がっています。次年度はさらに意識を高め、児童の経験値が広がるように考えます。主に臨床美術や工作の充実化、他事業所様との連携による活動、保護者様参加型イベントの企画の増加を心掛けます。児童の体力発散は大きな課題であるため、引き続き、室内で行える運動を取り入れます。
2	父母の会の活動を支援や、保護者会等を開催する等により、保護者同士の交流の機会を設けられるなど、家族への支援がされていますか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていない。	今年度は2回の保護者、きょうだいが参加できるイベントを実施しました。また参観も実施しています。好評の声に併せ、回数を増やしてほしいとの要望が聞かれています。全ての方が楽しめるであろうイベントの立案や立案、実行するための時間を作ることが課題と考えます。	次年度はイベントの回数を増やし、各イベントに担当者を設置しています。皆様が楽しみつつも交流の場ともなれるイベントの企画を増やします。また、今後もニーズを確認しながら交流の場や機会を増やしていけるようにします。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会がありますか。	室外活動の際に遊具を共有するなどの交流はありますが、特定の機関との交流はしておりません。	地域の繋がりを意識し、保育所等に限定はせず、地域間、事業所間交流を行います。